

地域学校協働本部だより

第2号
平成30年12月18日(火)発行
大玉村地域学校協働本部（農村環境改善センター内）
大玉村玉井字西庵 183 TEL 0243-48-3139

平成30年度福島県社会教育研修会(兼第1回ボランティア研修会)が開催されました

10月2日(月)午後3時から、改善センターにおいて平成30年度福島県社会教育研修会(兼第1回ボランティア研修会)が開催されました。研修会には、村内の協働本部地域教育協議会委員、ボランティア(学校支援・放課後子ども教室)、教育委員、社会教育委員などの皆様33名が参加し、研修会テーマの「地域の力で家庭や子どもを支える～なぜ、今家庭教育支援が求められているのか～」について研修を深めました。以下は、講話(講師:県教育庁県北教育事務所総務社会教育課主任社会教育指導主事 菅藤文彦氏)の概要です。



菅藤氏による講話

○ 家庭教育は全ての教育の出発点

家庭は、子どもに「基本的な生活習慣」「生活能力」「自立心」「愛情」「豊かな情操」「倫理観」などを育成する重要な役割をもっています。

「家庭教育」とは、家庭内で行われる教育的行為のことであり、一生涯にわたり、発達段階・年齢等に応じ、自らの資質向上のために継続的に学習するという「生涯学習」の一つです。たとえば、親が子どもに対して行う「しつけ」などがあり、親や保護者が子どもに対して施すものです。

○ 教育基本法による法的な位置づけ

- ・保護者は、子どもに対して第一義的な責任を有しています。
- ・家庭教育支援は、国及び地方公共団体の責務です。
- ・教育における学校、家庭、地域住民等の相互の連携と協力は「努力義務」です。

○ 家庭教育を行う上で困難を抱える家庭が増加傾向に(全国的)

- ・経済的、精神的に重い負担を抱える親が増えています。
共働き世帯数の増加により、家事や育児を一人で担い、ストレスを抱えた母親が増え、様々な問題(育児不安、母子密着、過保護、過干渉、虐待、子育て責任放棄等々)が発生しています。
- ・「子どもの病気や障がい」「いじめ」「不登校」「引きこもり」「ダブルケア(子育てと親の介護)」なども増加。

○ 家庭教育支援とは

- ・「家庭教育支援」とは、家庭教育を「支援」することであり、その対象は親(保護者)になります。＜子育て＝自分育て＝親自身の学びを支援すること＞
- ・地域での日常的な交流活動が重要です。

つまり、親(保護者)が安心感と自信をもって家庭教育を施し、子どもとともに成長するための学びを支援することが大切です。親子の体験学習の機会や「親の学び」の提供(公民館・福祉施設で行われる家庭教育学級等)、日々の地域全体のつながりを大切に、コミュニケーションをとったり、時には助け合ったり、声を掛け合ったりする機会を多くすることが重要です。



グループ協議の様子

学校支援活動

ボランティア登録数 123名
平成30年12月1日現在

学校支援ボランティア事業は、普段の学校活動の中で、子どもたちが豊かな体験に基づいた学習をするためのお手伝いをするものです。外部講師として子どもたちに自分の得意分野での指導に当たることもあれば、教員だけでは手の届かない環境整備のような支援をする場合もあります。子どもたちは地域の大人とふれあうことで、地域社会の中で育っていることを実感しながら学ぶことができます。参加するボランティアさんにとっては、地域のよさや子どもたちのいいところを再発見したり、自分の長所に気付かされることもあります。子どもたちも大人たちも、一緒に生き生きと活動する姿をご紹介します。

大山幼稚園



今年も、計画的に年少さんから年長さんまで各クラスで読み聞かせを実施しています。子どもたちの真剣なまなざし…。楽しそうに聞き入っていました。

玉井幼稚園



9月5日(土)の運動会に向けての練習補助の様子です。行事実施に向けて、とても大きな力になっています。

大山小学校



校舎前の樹木の剪定を行っていただきました。

6人で役割分担し、力と息を合わせながら…。

とても大変な作業でしたが、終了後には、とても美しくなりました。また、教室にも光がたくさん入るようになって、明るくなり、学習や活動がしやすくなりました。

本職の仕事ぶりは本当に素晴らしいかったです。

玉井小学校



11月10日(土)の学習発表会に向けて、本蒯田植え踊りの着付け講習会を2回行いました。保護者の方が数多く参加してくださいました。

大玉中学校



11月26日(月)中学1年生が総合的な学習の時間でそば打ち体験を行いました。

じんだら会の皆様のご指導の下、子どもたちひとり一人がそばの打ち方を学びました。難しくても苦労していたようですが、お昼には打ち上がり、調理したそばをおいしく食べることができました。

早朝から一日がかりの準備とご指導をいただきました。大玉村ならではの素晴らしい体験学習であったと、改めて感じさせられました。

放課後子ども教室

2学期の放課後子ども教室が12月14日をもって終了いたしました。今学期もボランティアさんはじめ、地域の方々にお世話になり、いろいろな体験をすることができました。「うどん作り」や「新聞紙エコバック作り」「クリスマスリース作り」「ハンドベル体験」などボランティアさんの特技を生かして直接ご指導いただく活動が増えました。また、野菜の苗植えや収穫もボランティアさんのご指導のもとで作業を行い、無事に収穫を迎え、収穫したサツマイモ、かぼちゃはおやつ作りに利用してきました。どの活動もボランティアさんの適切な声かけや見守りによって、事故無く有意義に終えることができました。改めて感謝申し上げます。

保護者の皆様には、今学期も保護者ボランティアとして大いに活動に協力していただきありがとうございました。自分のお子さんだけでなく、子ども教室全体の様子がわかったり、ボランティアさんの活動を知ったりするよい機会になっておりますので、まだの方はぜひ3学期にご協力ください。

大山教室



収穫したお芋で石焼き芋。地域の佐藤良平さん手作りの釜で焼いていただきました。(最高！)



美しい音色のハンドベル。真剣な表情です。2曲完成！



うどん作り。手慣れた手つき(?)で伸ばしています。

玉井教室



ニュースポーツのキンボールに挑戦しました。



「魔法みたいだあ。」不思議なプラ板で自分だけのキーホルダーの完成。



みんなが大好きなおやつ作り。採れたサツマイモで芋蒸しパンを作りました。

地域に貢献! 「連携・協働活動」

「第1回おおたまコミュニティ・フェスタ」開催!

8月4日(土)、午後2時半から、第1回おおたまコミュニティ・フェスタが直売所前広場を会場に行われました。村商工会青年部が主体となり、大玉中学校の「放送部」、「吹奏楽部」、「美術部」、「あだたらの里合唱団」などの生徒や先生方が参加してフェスタを盛り上げました。

まさに夏真っ盛り的一天で、猛暑の中ではありますが、生徒たちがフェスタを盛り上げようとする気持ちがひしひしと伝わってくる活躍ぶりでした。その一端を紹介します。



↑ 大玉中美術部の皆さん
← おおたまコミュニティ・フェスタのPRポスター

美術部の生徒がコミュニティ・フェスタのポスターを作製してくれました。「おおたま夏祭り」のクライマックス“花火大会”を中心に据え、美しい大玉村のイメージを良く表した作品でした。会場の本部前に掲示され、多くの参加者が興味深く見ていました。



↑ MCを体験した大玉中放送部の皆さん



↑ あだたらの里合唱団のみなさん

約2時間の会でしたが、プロの司会者の支援を受けながら、放送部の3名はフェスタを成功させようと奮闘していました。

また、大山小合唱部出身者で今年結成されたあだたらの里合唱団の美しいハーモニーと、最後に出演した大玉中吹奏楽部のダイナミックな演奏が会場に響き渡り、観客の心を和ませていました。

多くの中学生が、ふるさと夏の祭典の準備や運営、出演等に関わった記念すべき日となりました。これまで多くの支援をいただきました商工会青年部の皆様に心より御礼申し上げます。



↑ 大玉中吹奏楽部の皆さん